中部大学

プレスリリース

2026 年 11 月 19 日
中部大学

大学生の HPV ワクチン接種率は男性が女性の約 20 分の 1 と低いことが判明
― ワクチン接種を取り巻く制度や環境整備を考えるうえで重要な指針に ―

発表概要

中部大学大学院生命健康科学研究科博士後期課程の世俵智恵子氏と伊藤守弘教授らの研究グループ（予防医学）は、大学生 3,203 名を対象に、ヒトパピローマウイルス（Human Papillomavirus：HPV）ワクチンの接種状況と、それに関連する知識や生活習慣について調査しました。HPV は男女ともに感染するウイルスであり、女性の子宮頸がんや男性の陰茎がんのほか、男女ともに発症する可能性がある肛門がん、中咽頭がん、尖圭コンジローマなどの原因となります。

その結果、HPV ワクチンの接種率は女性の 62.9%に対して男性は約 20 分の 1 の 3.2%と低く、男女間に大きな差があることが明らかになりました。また、ワクチンを接種していない理由にも男女で違いがあり、男性では「自分には必要ない」、女性では「副反応への心配」が最も多く挙げられました。さらに、HPV に関する知識はワクチン接種歴と関連していましたが、男女間の接種率の差は知識の違いだけでは説明できないことが示されました。

本研究は、男女それぞれの特徴を踏まえた情報提供と、ワクチン接種を取り巻く制度や環境の整備を考えるうえで、重要な資料となるものです。調査結果の詳しい内容は、2027 年 1 月 5 日付で国際的なワクチン分野の学術誌 Vaccine に掲載されるのに先立ち、10 月 22 日（中央ヨーロッパ時間）付でオンライン公開されました。

（研究の背景）

HPV は、子宮頸がんの主な原因となるウイルスです。また、女性だけでなく男性にも感染し、肛門がん、陰茎がん、中咽頭がんなどにも関係しています。

HPV ワクチンは、子宮頸がんをはじめとする HPV 関連疾患の予防に有効です。日本では 2013 年 4 月に女子を対象とした定期接種が開始されましたが、接種後に多様な症状が報告されたことを受け、同年 6 月に積極的な接種勧奨が差し控えられました。その後、安全性に関する科学的根拠の蓄積や新たな支援体制の整備を経て、2022 年 4 月に積極的勧奨が再開され、接種機会を逃した女性へのキャッチアップ接種も実施されました。

一方、男性については、2020 年 12 月に HPV ワクチンの使用が承認されたものの、論文で扱われた制度上、定期接種には位置づけられておらず、接種費用は原則として自己負担と

なっています。こうした状況を背景に、研究グループは、大学生の HPV ワクチン接種状況を男女別に調べ、接種に関連する要因を明らかにすることを目的として調査を実施しました。

（研究の方法）

研究チームは、2025 年 4 月 12 日から 19 日にかけて、日本国内の私立大学 1 校の学部学生を対象に、インターネットによるアンケート調査を実施しました。回答者 5,255 名のうち、大学院生、性別の無回答者、回答に不備があった学生、HPV ワクチンの接種状況が不明な学生を除き、男性 1,760 名、女性 1,443 名の計 3,203 名を解析対象としました。

調査では、HPV ワクチンの接種歴、接種または未接種の理由、HPV に関する 13 項目の知識、食生活や運動習慣などを尋ねました。さらに統計解析によって、接種歴と関連する要因を男女別に検討するとともに、HPV に関する知識が、男女間の接種率の差にどの程度関係しているかを探索的に分析しました。

（主な研究結果）

1. HPV ワクチン接種率には大きな男女差が認められた

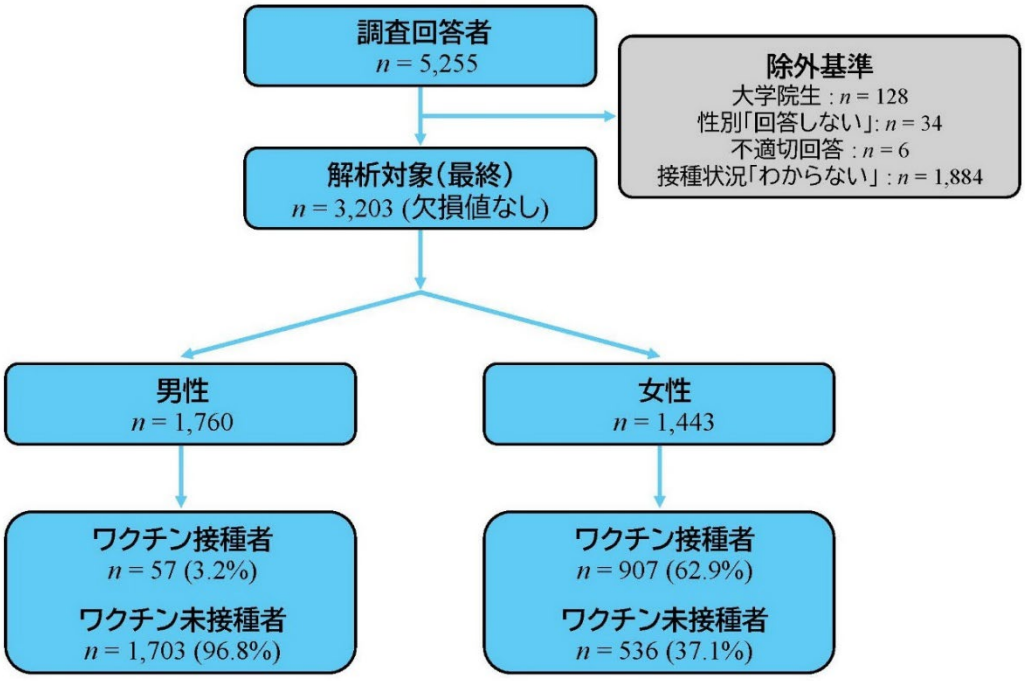


図　男性の接種率は女性と比較して著しく低く、統計学的にも有意な差（P < 0.001）が認められました。

2. ワクチンを接種していない理由は男女で異なっていた

ワクチン未接種者 2,239 名について、その理由を調べたところ、男性では「自分には必

要ない」と回答した割合が 81.1%と最も高くなりました。一方、女性では「副反応への心配」が 50.4%と最も多く挙げられました。

また、接種経験者 964 名の接種理由では、「親の意見や勧め」が全体の 67.8%を占めました。女性では 69.9%でしたが、男性では 35.1%でした。

このことから、接種に関する意識や判断に関わる要因が、男女で異なる可能性が示されました。

3. ワクチン接種歴に関連する知識や生活習慣にも男女差がみられた

女性では、「HPV が子宮頸がんの原因となること」や「公費による無料接種があること」を知っていることが、接種歴と統計学的に関連していました。一方、男性では、「HPV が男性にも感染すること」を知っていることに加え、栄養バランスを意識した食生活や運動習慣が、接種歴と関連していました。

なお、本研究で用いた「無料接種があること」に関する質問には、接種対象者の性別や適用条件が明記されていませんでした。そのため、回答者によって質問の受け取り方が異なっていた可能性があり、結果の解釈には注意が必要です。

これらの結果は、ワクチン接種歴と関連する要因が男女で異なることを示しています。

4. 知識の違いだけでは接種率の男女差を説明できない

HPV に関する 13 項目の知識を得点化し、男女間の接種歴の差との関係を分析しました。その結果、HPV に関する知識の違いは、接種歴の男女差と統計学的に関連していましたが、その関連の一部しか説明できませんでした。ただし、本研究は一時点での調査に基づいているため、HPV に関する知識がワクチン接種につながったのか、接種後に知識が増えたのかについては判断できません。

研究グループは、これらの結果から、知識を増やす取り組みだけでは男女間の接種率の差を解消することは難しく、接種制度や費用負担などの要因にも目を向ける必要があると考察しています。

（研究から考えられること）

本研究では、特に男性の HPV ワクチン接種率が低く、未接種男性の多くがワクチンを自分に必要なものと認識していないことが明らかになりました。また、女性では副反応への不安が、接種を受けていない理由として多く挙げられました。研究グループは、これらの結果を踏まえ、男性に対する HPV 関連疾患のリスクについての情報提供、女性に対する副反応に関する科学的根拠に基づいた情報提供、保護者への情報提供などが重要であると考えています。さらに、男性の定期接種制度や公費助成の整備、大学の保健管理部門などを通じ

た情報提供の充実を提言しています。

（本研究の限界）

本研究は、ある時点でのアンケート回答を分析した横断研究です。そのため、HPV に関する知識や生活習慣がワクチン接種につながったという因果関係を証明したものではありません。また、ワクチンの接種歴は本人の申告に基づいており、接種記録との照合は行っていません。さらに、HPV ワクチンの接種状況が「わからない」と回答した 1,884 名は解析対象に含まれていないため、本研究で示した接種率は、接種状況を回答できた学生を対象とした結果です。特に男性の接種者は 57 名と少ないため、男性に関する統計解析結果の解釈には注意が必要です。

さらに、調査は国内の私立大学 1 校で実施されたものであり、その結果を日本の大学生全体にそのまま当てはめることはできません。

（まとめ）

今回の研究では、大学生の HPV ワクチン接種率に大きな男女差があり、ワクチンを接種していない理由や、接種歴に関連する知識・生活習慣にも男女による違いが認められました。また、HPV に関する知識の違いだけでは、接種率の男女差を十分に説明できないことも示されました。

研究グループは、HPV ワクチンを女性だけの問題として捉えるのではなく、男性も含めた予防対策として考え、男女それぞれの状況に応じた情報提供と接種環境の整備を進めることが重要であると結論づけています。

論文の情報

雑誌名： Vaccine

論文タイトル：Sex Differences in Human papillomavirus Vaccination Among Japanese University Students and Associated Factors: A Cross-Sectional Study Examining the Mediating Effect of Knowledge and Interactions

（日本語）日本の大学生における HPV ワクチン接種の男女差と関連要因：知識の媒介的役割と交互作用を検討した横断研究

著者：Chieko Yodawara, Yoko Iio, Harumi Ejiri, Yukihiro Mori, Manato Seguchi, Yuka Aoyama, Morihiro Ito

DOI: 10.1016/j.vaccine.2026.129276

URL:
https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S0264410X26010856?via%3Dih

ub

研究倫理審査

中部大学倫理審査委員会承認（承認番号：20240102）

お問い合わせ先

【研究内容について】

伊藤守弘 中部大学 生命健康科学部スポーツ保健医療学科 教授

電子メール　m-ito@fsc.chubu.ac.jp

電話　0568-51-7054

【報道担当】

中部大学 入試・広報センター

電子メール　chubu-info@fsc.chubu.ac.jp

電話　0568-51-5541